様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年　6 月　20 日現在

機関番号：28001
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2010 年度～2012 年度
課題番号：22520146
研究課題名（和文）20 世紀沖縄の芸術諸領域の文化論的研究
研究課題名（英文）Cultural Theories on Arts and Performing Arts of 20th Century Okinawa

研究代表者
久万田晋（KUMADA SUSUMU）
沖縄県立芸術大学・付置研究所・教授
研究者番号：30215024

研究成果の概要（和文）：
20 世紀沖縄の芸術諸領域について、音楽班、美術工芸班、文学班、観光文化班に分けて、相互に関連する課題を追求した。音楽芸能班は、戦後沖縄の米軍基地内外での沖縄人音楽家の音楽活動に関する資料を収集公開した。また、戦後エイサーの展開に関する資料を収集し芸能のダイナミックな変化の動態を描き出した。美術工芸班は、ジェンダーの視点を導入すると共に、戦後米軍の沖縄美術への関わりや、都市や文化の復興政策に公共彫刻が果たした役割を明らかにした。文学班は、組踊「手水の縁」について都市文学という斬新な観点から考察を進めた。観光文化班は、インドネシア・バリ島と戦後沖縄の観光文化政策について比較する観点から観光文化政策についての考察を押し進めた。
これらの成果の総合によって、20 世紀沖縄の芸術諸領域の相互関連性について、重層的に解明を進めることができた。

研究成果の概要（英文）：
This project has examined cross-cutting issues pertaining to various realms of art in 20th century Okinawa. Four different research sub-groups, music, fine arts and crafts, literature, and tourism groups, engaged in their respective projects.
The music group examined Okinawan musicians and their activities on and around US military bases in Okinawa. This group also analyzed the development of Eisa after World War II and elucidated the dynamics and changes of the performing art.
The fine arts and crafts group, incorporating gender perspectives, shed light on the influences of post-war US military presence on Okinawa's fine arts. This group also illustrated the roles that public sculptures have played in Okinawa's urban and cultural revival policies after WWII.
The literature group took a novel approach to Kumiodori: the group employed the perspective of urban literature to review Temizu no en, a Kumiodori drama
The tourism group compared policies of cultural tourism between Bali, Indonesia and Post-WWII Okinawa and developed further discussion on policies of cultural tourism.
The project as a whole examined the multi-tiered inter-relationships among different realms of art and performing arts of 20th century Okinawa.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
平成 22 年度	1,200,000	360,000	1,560,000
平成 23 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
平成 24 年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			

総　計	3,000,000	900,000	3,900,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：芸術学・芸術学
キーワード：芸術諸学、美学、20 世紀、沖縄

１．研究開始当初の背景

研究代表者の久万田と分担者の喜屋武、波平、梅田は挑戦的萌芽研究「沖縄の都市空間の文化論的研究」（平成 19～21 年度、研究代表者：久万田晋）において、近代沖縄に成立した都市空間において沖縄の芸術文化諸分野（音楽、美術、文学、観光）がどのように展開したかを一時資料の収集に基づいて追求してきた。この研究の結果、20 世紀沖縄の芸術諸領域の展開を考察するには次のような課題が明らかとなってきた。

音楽芸能の分野において、研究代表者の久万田はこれまで沖縄特有のポピュラー音楽である沖縄ポップや民族芸能エイサーを対象として、戦後沖縄においてこれらの音楽芸能がどのような展開を経てきたのかを社会状況との関連から考察してきた。さらに戦前期の沖縄の芸能状況が日本本土との関連性のもとにこんにちの基礎を形成してきたことを考察した。そこから政治・社会的背景や、社会基盤、文化政策、大衆メディア、本土側との相互関係など包括的視野のもとに隣接領域と相関的に考察する必要性を認識した。

美術工芸班では、「沖縄の都市空間の文化論的研究」において、沖縄で開催された日本古美術展についての考察を発表する一方で、復帰前後の美術に関する新聞記事の収集作業にも着手し、事象の整理取りまとめと分析を継続中である。予想を超えて膨大な資料となったため、中間的な成果を発表するまでには至らず、本研究を通じて今後も継続的な調査が必要となることを認識した。

文学班研究分担者の波平は、これまで琉球（沖縄）文学の古典ジャンルである「組踊」の諸作品について、日本文学の作品との比較研究を行ってきた。その結果、古典組踊の諸作品は日本文学の強い影響を受けていることを明らかにした。さらに、「都市文学」という新たな観点から古典組踊の作品である『執心鐘入』と『手水の縁』の解釈をした。「都市文学」という観点を導入した結果、古典組踊は近世日本の都市文化の伝統を強く受け継いでいることを明らかにした。

観光文化班研究分担者の梅田は、これまでインドネシアのバリ島の文化観光政策のほか、沖縄の観光政策に言及した論考『観光開発と文化』（世界思想社、2003）に「ローカル、グローバルもしくは「ちゃんぷるー」と題して、沖縄の観光文化の変遷とその種類について歴史的に言及した。20 世紀の沖縄ではバリと同様、さまざまな観光文化が創出されている。本研究では、こうした「作られた伝統」に焦点を当てることを試みる。

２．研究の目的

本研究は、20 世紀の沖縄における音楽、芸能、美術工芸、文学、映画など芸術文化諸領域の展開について、包括的かつ具体的に考察するものである。

沖縄にとって激動の時代であった 20 世紀を（1）戦前期、（2）戦後の米軍占領期、（3）日本復帰以後、の３期に区分する。各々の時期の芸術文化諸領域について、政治・社会的背景や、社会基盤（劇場、ホール、美術館、博物館など）、文化政策、大衆メディア、本土側（または海外）との相互関係など分野共通の視点を設定し、これらと芸術各分野の関係を横断的に概観してゆく。それによって 20 世紀沖縄の芸術文化諸領域がどのような有機的な関連を持ちながら相互影響的に展開してきたを考察する。それによって、こんにちの沖縄を含む日本において、どのように「総体としての沖縄文化」が現出しているかを明らかにしようとするものである。

３．研究の方法

本研究は、研究代表者と研究分担者４名で構成されている。具体的な調査研究を推進するために、全体組織を音楽芸能班（久万田　：研究代表者）、美術工芸班（喜屋武・小林：研究分担者）、文学班（波平：研究分担者）、観光文化班（梅田：研究分担者）の四班に分け、緊密な相互的連携を取りながら、研究計画を実施した。各年度は基本的に２回の全体会議の開催および各班の調査研究の実施によって進めていった。各年度に適宜研究成果を発表するための公開研究会を開催して、各班の研究成果の取りまとめを行った。

４．研究成果

音楽芸能班の久万田は、戦後沖縄の米軍基地内外での沖縄人音楽家の音楽活動に関する写真資料・口述資料を収集整理して記念誌を作成した（図書①）。また戦後沖縄のエイサー芸能の展開に関する資料を収集分析し、その成果をいくつかの業績にまとめた（図書③他）。

美術工芸班研究分担者の小林は、沖縄の女

性美術家や沖縄女性が描かれた作品を調査し、ジェンダーの視点を取り入れた研究を行った。戦前期については「近代美術における沖縄・女性・表象」と題したコロキウムを開催し、女性表象の日本復帰以後については女流美術をリードした宮良瑛子の作風と 活動を沖縄美術史に位置づけた（雑誌論文⑧)。また戦後の米軍占領期に山田真山が制作した日本画下絵 280 点 余を調査研究し、終戦直後の画材や技法、米軍の美術への関わりなどを明らかにした（雑誌論文②)。さらに沖縄の公共彫刻を調査し、特に玉那覇正吉による戦後の作品から、都市や文化の復興政策に公共彫刻が果たした役割を分析した（雑誌論文⑥)。同じく美術工芸班の喜屋武は、20 世紀芸術に関する美学的考察を進めることで（雑誌論文⑦⑩⑬)、20 世紀沖縄における芸術運動の美学的考察の基盤を整備した。

文学班研究分担者の波平は、古典組踊『手水の縁』について「都市文学」という観点から詳細にそのモチーフを検討した。その結果、『手水の縁』の舞台となった場所は首里という王朝の都であることを仮説として提示した。この仮説は、『手水の縁』の舞台は瀬長島（現在の豊見城市）であるという従来の定説に重大な変更を加えるものである。つまり都市文学として『手水の縁』をとらえ、日本文学の伝統的な都市（王朝）文学である『伊勢物語』、『源氏物語』のモチーフを受け継ぎ、都を舞台にした貴族の恋愛の物語であると結論づけた（雑誌論文⑫)。

観光文化班の梅田は、バリ島における観光文化政策を詳細に検討し、前後沖縄の観光文化政策との比較検討を行った。その上で、今後の沖縄観光文化に関する方向性に関する研究を押し進めた（雑誌論文①⑪⑭)。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 14 件）

① 梅田英春、「アダット」から「アガマ」へ-現代バリにおける悪魔祓いサプ・レゲール儀礼の復活、沖縄芸術の科学、25 号、2013、査読無、56-59

② 小林純子、沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館所蔵の山田真山下絵資料について、「山田真山が描いた世界」展図録、那覇市歴史博物館、2013、査読無、35-38

③ 久万田晋、近現代沖縄におけるポピュラー音楽の展開、歴博、NO.175、2012、査読無、12-15

④ 久万田晋、沖縄の民俗芸能の分類、民俗音楽研究、37 号、2012、査読無、40-47

⑤ 波平八郎、プリントアート／テクスト、版と言葉-版画集による国際交流展-、2012、査読無、56-59

⑥ 小林純子、玉那覇正吉『竜 浮彫』-彫刻と絵画のはざまで-、沖縄県立芸術大学紀要、20 号、2012、査読無、1-12

⑦ 喜屋武盛也、森林美学の歴史と射程、日常性の環境美学、2012、査読無、125-150

⑧ 小林純子、宮良瑛子―生命と平和を見つめて―、宮良瑛子作品集、宮良瑛子、2011、査読無、10-16

⑨ 波平 八郎、俳句の理念―『高悟帰俗』、2011 彫刻五・七・五（国際芸術大学交流展)、1 巻、2011、査読無、22-36

⑩ 喜屋武盛也、森林美学：美学芸術学の視点から、北方林業、742 号、2011、査読無、14-17

⑪ 梅田英春、スカルノ政権下のバリにおける社会主義リアリズム舞踊の再評価、沖縄芸術の科学、23 号、2011、査読無、1-29

⑫ 波平 八郎、『手水の縁』のモチーフ、 沖縄県立芸術大学紀要、18 号、2010、査読無、57-72

⑬ 喜屋武盛也、佐々木吉三郎『教育的美学』における芸術教育の思想、美術教育、第 293 号、2010、査読無、108-109

⑭ 梅田英春、バリ舞踊レゴン・クラトンにみるインドネシアの文化政策、インドネシア芸能への招待-音楽・舞踊・演劇の世界（皆川厚一編)、東京堂出版、2010、査読無、155-174

〔学会発表〕（計 6 件）

① 久万田晋、20 世紀沖縄における民俗芸能の発展～エイサーを中心に～、法政大学沖縄文化研究所総合講座・沖縄を考える(招待講演)、2012 年 10 月 19 日、法政大学

② 久万田晋、沖縄の芸能・音楽研究の半世紀と今後の課題、シンポジウム〈沖縄学〉を問いなおす-過去・現在・未来へ-、2012 年 08 月 11 日、沖縄県立博物館・美術館

③ 久万田晋、沖縄の民俗芸能の分類について、日本民俗音楽学会第 25 回沖縄大会、2011 年 12 月 18 日、沖縄県立芸術大学

④ 小林純子、戦前期の紅型と女性表象、コロキウム「近代美術における沖縄・女性・表象」、2011 年 10 月 14 日、沖縄県立芸術大学

⑤ 久万田晋、沖縄の民俗芸能論-分類の問題と踊り歌の比較-、沖縄藝能史研究会、2011 年 7 月 2 日、那覇市：八汐荘

⑥ 梅田英春、バリ島の社会主義リアリズム舞踊に対する再評価、日本音楽学会第 61 回大会、2010 年 11 月 7 日、愛知芸術センター

〔図書〕（計 3 件）

①久万田晋（共編）、沖縄 JAZZ 協会記念誌、沖縄 JAZZ 協会、2011、全 294 頁
② 梅田英春（共著）、フィールドワーカーズ・ハンドブック、世界思想社（日本文化人類学会監修）、2011、全 324 頁
③ 久万田晋、沖縄の民俗芸能論　神祭り、臼太鼓からエイサーまで、ボーダーインク、2011、全 370 頁

〔産業財産権〕
○出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
久万田晋（KUMADA SUSUMU）
沖縄県立芸術大学・付置研究所・教授
研究者番号：30215024

(2)研究分担者
波平八郎（HAMIHIRA HACHIROU）
沖縄県立芸術大学・美術工芸学部・教授
研究者番号：40279427

小林純子（KOBAYASHI JUNKO）
沖縄県立芸術大学・美術工芸学部・教授
研究者番号：80316207

喜屋武盛也（KIYATAKE MORIYA）
沖縄県立芸術大学・美術工芸学部・准教授
研究者番号：10345241

梅田英春（UMEDA HIDEHARU）
静岡文化芸術大学・人文・社会学部・教授
研究者番号：40316203

(3)連携研究者
なし